

アップサイクルで知るモノの価値

対 象：小学校4-6年
 人 数：1クラス 30-35人
 教科／分野：総合学習
 授業時間数：45分×2
 場 所：室内

ESD プログラム への 想い	安全安心安価に買える衣料品が巻き起こす労働問題や環境問題。またそれらがどれだけ無駄に作られ、どれだけ棄てられていくか？そしてその事で拍車がかかる環境汚染モノが簡単に手に入る時代だからこそ忘れがちなその価値をアップサイクルと言う体験をもとに理解してほしい。本来、日本人が持ち合わせていた「MOTTAINAI」と言う精神を取り戻す。		
目標	学習者が簡単に安価で、安全に、安心に何でも手に入る裏側にある労働問題や環境負荷への実態を理解し、モノの大切さや短サイクルで手放すことにより生じる環境負荷の真実を理解する。		
特徴	自分ごとにして貰う為、自らアップサイクルした作品に価格を付けて貰い、労働賃金と見合うか？どうかを検証する事でモノの価値の理解を深める。		
持続可能な社会づくりの構成概念	責任性：サステナブルな生産とエシカルな消費の両面を理解する事で、双方の立場から物事を捉える力を養う。 有限性と公平性：自らの行いが遠くの誰か？を犠牲にし、未来の誰か？に負担を掛ける事がないのか？検証を行う。		
重視する能力・態度	③多面的、総合的に考える力：手作り品のアップサイクル品を作る事で個性や多様性を尊重する能力 ⑦他者と協力する態度：2人1組で作業する事で他者と協力する態度		
プログラムの流れ			
内容：衣料廃棄品を使ったアップサイクル体験 方法：講義とワークショップ 場所：教室 ねらい：アップサイクル体験を通して、モノがあふれる実態とモノの本当の価値を理解する。			
時間	ねらい	方法 場所	内容
30分	衣料品が作られる工程を理解する	教室	Tシャツが作られる工程を順を追って説明し、どのタイミングでどのような環境負荷、労働負荷が掛っているかを説明
15分	アップサイクルとは？		アップサイクルの必要性を実際にアップサイクルされた商品事例と共に紹介(海外での最新プロダクションの紹介や日本で伝統的に行われていた手法の紹介) リサイクルとの違いについて検証

20分	衣料品アップサイクル		各自2人ずつのペアになり、衣料品からアクセサリをアップサイクル。(可能であれば各家庭の古着Tシャツを持参) その際、製作時間を記録
5分	作った作品の価値を決める。		各自が作った作品に販売価格を付ける。 時給900円として製作時間から人件費を試算 その他、販売する為にかかる経費項目を列挙
5分	発表		一番高く設定した人と低く設定した人がそれぞれ発表
5分	解説		社会・環境・経済の3つにおいてバランス良い価格とは？
5分	再検証		解説を元に各自再検証
5分	新たな発想を生む		家庭でアップサイクルできるモノを考える。
SDGsとの関連性	1 2. つくる責任 つかう責任 1 3. 気候変動に具体的な対策を		
学校・地域等との連携上の考慮			
対象を発展させる可能性	親子参加であれば小学校低学年からでも参加可能 アップサイクルする商品が各年齢層のターゲットにあえば、中、高生にも対応可能		
その他補足事項	各自家庭で使用していないTシャツ		

プログラム作成者名（団体名）：梶原 誠 (WAcKA)